

<p>①設定 目標</p>	<p>～つくる～ 学ぶ喜びを感じる魅力ある授業の創造</p>
<p>②本 年度 の 取 組 み 状 況</p>	<p><つきたい力> *どんな変化にも柔軟に対応できる基礎学力 *自ら主体的に学ぶ姿勢 *他の考えを聞き、自分の考えを深め、表現する力</p> <p><校内研究テーマ> ・小中一貫教育で取り組む「学ぶ喜び」と「しなやかな心」の育成 ・「ことば力」でつくりあげる集団の育成</p> <p><目標達成のための主な取り組み> <u>○朝タイムを活用した学力充実の取り組み [1～4年]</u> 月 朝読書 火 (2学期から月1回) 教職員による絵本の読み聞かせ 水 朝国語 どんどんプリント 木 朝算数 ぐんぐんプリント</p> <p>●朝国語の取り組みについて <u>【児童の課題】</u> ・書くことへの抵抗がある。 ・日記や作文が苦手な児童が多い。 ・語彙が少ない。</p> <p>昨年度から水曜日に朝国語を実施。これまでの学年で習った漢字を使って作文を創る課題、きまった単語(例、ふゆ、花)を使った条件作文、一つの言葉から連想する単語を集める言葉集めなど、答えが一つではない課題に取り組んだ。また、友達の考えを共有することで、様々な発想があることに触れる機会を作った。</p> <p>●朝算数の取り組みについて <u>【児童の課題】</u> ・四則の計算問題を正しく解く。</p> <p>今年度から木曜日の朝算数で、学年の課題に応じた計算や、文章題に取り組んだ。繰り上がりの足し算や繰り下がりの引き算、掛け算や割り算の基本が定着、また、文章題を読み取る力の育成をめざして課題を行った。</p> <p><u>○校内研究の成果の発信</u> ●研究授業 【実施日、学年、教科、授業者】 5月30日 4年 国語科 川本 10月2日 2年 国語科 芦田 【指導助言】増田ゆか講師(大阪学院大学) 11月10日 5年 音楽科 藤井 1月18日 3年 総合 池田 【指導助言】佐久間敦史准教授(大阪教育大学) 2月15日 1年 国語科 中尾</p> <p>●教育委員訪問 【実施日、学年、教科、授業者】 11月27日 5年 国語科 上畑 11月29日 3年 算数科 進藤</p>

●**スクールエンパワーメント推進事業 全学年公開授業（11月2日）**

【研究テーマ】

「ことば力を育む魅力ある授業づくり」
～カリキュラムマネジメントの実践をとおして～

【重点取り組み】

- ・児童が主体的に学び、自分の考えを表現することができる力の育成をめざし、各教科の学習を横断的に学べるカリキュラムマネジメントの実践

【取り組み方法】

- ・教科横断的な視点からの単元構想で、子どもたちが意欲的に学べる授業づくりを実践する
- ・課題の解決に向けて、主体的・対話的な話し合いの場面を設定する
- ・言語活動を取り入れ、自らの学びの成果や過程が振り返られるようにすることで言語能力を育む

○5・6年 教科担任制

深い教材研究や教員の専門性を発揮し、子どもたちの学習意欲と学力の向上を図ること、複数の教員が子どもに関わることで、問題の早期発見につなげ、生活指導に役立てること、小中学校間の連携を推進し、小学校から中学校への円滑な接続を図ることをねらい、令和4年度から5・6年に教科担任制を導入した。社会、算数、理科、英語、音楽、図工、家庭、体育は教科を担当する教員が5・6年生の授業を受け持つ体制をとった。

○東能勢小学校スタンダード（授業規律）

授業に向かう基本の姿を教員間で確認し、児童と共有することで授業規律を整え、学習に向かう意欲を高める取り組みを行っている。

【例】

- ・児童も教師も時間を守っている
- ・チャイムまでに授業の準備ができている
- ・机に必要なもの以外を置いていない
- ・机にらくがきしない
- ・あいさつをしている
- ・発言の際、名前をよばれたら「はい」と返事をしている
- ・必要な時以外の離席はない
- ・ノートを書くときは下敷きを敷いている（コンパス等使う時以外）
- ・上ぐつのかかとをふまずに正しく履いている
- ・おしりをつけて、いすに座っている

○タブレットドリル試行導入

授業の中で課題が終了した児童からタブレットドリルに取り組むことでスキマの時間を有効に活用するなどタブレットドリルを試行導入した。

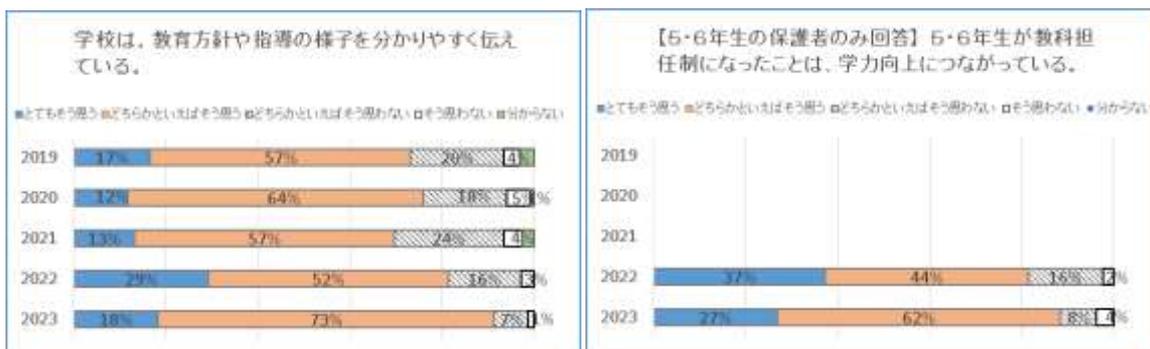
メリットとしては、問題に取り組むと、その場ですぐに自動採点されるため、苦手なところを繰り返し学習したり、解説動画を視聴したりすることができより理解を深められることなどがあげられる。冬休みの宿題など家庭学習への活用も進めているが、育成室にWi-Fi環境が整っていないことが今後タブレットドリルを活用していくうえでの課題である。「紙による学習」と「タブレットによる学習」を上手に使い分けながら、学習を進めていく。

○自学自習

学校で学習したことが自分の力になっているか確認するため、また、学習したことを活かし、自分の得意な分野を見つけ、自主的に学習を深めることをねらい、令和4年度から全学年で自学自習に取り組んでいる。担任以外の教員もコメントを書き、複数の教員で子どもたちの学習を見るようにし、子どもたちとの関係づくりに役立てている。自学ノートを学級通信や、教室掲示、また全学年の廊下掲示などをとおして、子どもたちのがんばりを紹介し、

	<p>学習意欲の向上につなげている。ご家庭でも、引き続き自尊感情が高まるような声掛けを積極的に行っていただきたい。</p> <p>○校内研修</p> <p>4月17日 集団づくりを基盤とした人権学習研究 「P4C」について 4月21日 児童の「育てたい力」に向けて学びをつなげる単元構想 7月21日 指導案の書き方について、単元構想シートの作成 8月24日 1学期のふりかえりと2学期からの学習に向けた単元配列表の見直し 1月10日 3学期の学習に向けた単元配列表の見直し、学年毎の課題分析</p> <p>○相互授業参観「見に来て♪週間」 教員同士で授業参観を行い、お互いに助言を行い目的の達成をめざす。 【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが主体的・意欲的に学べる授業づくりの実践を進める。 ・教師の授業力を向上させる。 <p>【実施時期】 6月、11月、2月</p> <p>○とよのチャレンジ（12月5日） 子どもたちの学力・生活面を把握分析し、各学年の指導・授業内容に反映させていくことにより、9年間にわたり継続的な成長を進めていくため令和3年から豊能町全校で実施。</p> <p>○通知表の評価方法にかかる資料を作成・配付 昨年度から通知表の評価の視点ができるように教科ごとに要点をまとめた一覧を作成し、毎学期、通知表とともに配付した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容</p>	<p><全国学習・学力状況調査の結果より>（令和5年4月18日全国の小学校6年生対象に実施） 国語、算数とも全国・大阪府を下回っている。 国語では「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」の全ての領域において、大阪府・全国平均より大きく下回った。 「書くこと」の領域においては、大阪府を少し上回り、全国は少し下回った。 算数では「A数と計算」「B図形」「C変化と関係」「Dデータの活用」の全ての領域において、大阪府・全国平均より大きく下回った。 基礎基本の学習の定着を図り、主体的に学習へ向かう意欲を高めることをねらいとして、授業はもとより、朝学習、自学自習の取り組みを進めていく。1年生から基礎基本の積み上げや学習意欲の向上をめざし、「とよの授業スタンダード」を基本とした授業を構成し、「主体的・対話的で深い学び」のある授業の実践を行う。それに加えて、自分の意見をまとめ友達と交流し、さまざまな考え方にふれることができる授業づくりをめざす。 また、学級活動、縦割り活動で様々な交流から学びを深めたり、「とよの未来科～東能勢style～」をとおして、課題解決に向けて自ら考えたことを発表する活動、探求し自分の考えと仲間との考えの違いを交流する活動を行うことで、基礎学力を自主的に活用する機会の創出を行う。</p> <p><学校教育自己診断の結果より> ※（今年度←昨年度の肯定的な回答の数値） 肯定的な回答：「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計値 ※構成比は端数処理の都合上、合計は必ずしも100%とはなりません ※令和4年度から「分からない」という選択肢をなくしています</p> <p>保護者アンケートを今年度から Google フォームを活用し、インターネットからの回答をしていただく方法とした。昨年度までの紙ベースのときの回答率は99%であったが、今年度の回答率は82%となった。今後の課題として、回答率の向上を図っていく必要がある。 保護者アンケートの結果において、特に学力向上に関わる項目について肯定的な回答は下のおりである。 「子どもは授業がわかりやすいといっている」（86%←84%）</p>

「学校は、教育方針や指導の様子を分かりやすく伝えている」(91%←81%) [下図]
 「通知表の評価や記録は、適切でわかりやすい」(85%←81%)
 「学校は、学習や生活のきまりを指導している」(92%←89%)
 「(5・6年の保護者のみ回答) 5・6年生が教科担任制になったことは、学力向上につながっている」(89%←81%) [下図]



児童アンケートの結果において、同じく肯定的な回答は下のとおりである。

「算数の授業は、よくわかる」(89%←85%) [下図]
 ⇒昨年より「とても思う」の割合が5%増加している。
 「国語の授業は、よくわかる」(93%←86%) [下図]
 「通知表(あゆみ)で、自分のがんばりがよくわかる」(89%←86%)
 「先生たちは、学習のルールや生活のきまりを教えてくれる」(96%←96%)



家庭での学習にどのくらい取り組んでいるかの項目についての児童のアンケート結果は下図のとおりである。

自学自習の取り組みを定着させることで、家庭での自主的な学習につながっていくことをめざしている。家庭で子どもが学習に取り組んでいることに対し、自己肯定感の高まるような声掛けを積極的にしていただくことで、学習意欲の向上につなげていきたい。

家庭学習の目安時間としては、学年×10分としており、発達段階に合わせ、以下のような姿をめざす。

- 1・2年 → 学校の宿題ができる。家庭でも学習しようという気持ちももてる。
- 3・4年 → 学校の宿題が確実にできる。宿題以外にも少しずつ家庭学習ができる。
- 5・6年 → 学校の宿題が確実にできる。自主的な家庭学習ができる。



(○) 評価できる点 (●) 課題とする点 (☆) 提言など

- 5.6年生の教科担任制がうまく軌道にのっているようで、大いに評価できる。これこそ小中一貫で出来るメリットなので、今後も活用して欲しい。
- アンケート結果から見ても教科担任制は学力向上につながっていると評価できる。
- 教科担任制にする事で、他の先生とのつながりができるのでよい。
- どの先生とも関わりがあることで、悩みがあった時に先生を選べる。
- 朝タイムを活用した取り組みは、コツコツ継続することで力になるので良い。また、教職員による読み聞かせは、児童にとっても教職員にとっても、心やすらぐ時間となり、関係も深まると考えられる。
- 研究授業や校内研修が積極的に行われていて、児童からも授業に対して肯定的な意見が増加している。
- 学力向上に向けて様々な取り組みをされていることは評価できる。
- 算数、国語の授業がよくわかると回答する児童が増加傾向にあることは先生方の取り組みの成果でもあり評価できる。
- 保護者アンケートでも学校での取り組みを評価していただける方が増加傾向にあると評価できる。
- 「東能勢小学校スタンダード→学習意欲の向上→道徳心に繋がる」流れが非常に素晴らしい。これを1～4年で習慣化、5～6年の担任制導入で学力向上に進んでいく。前期学部において、府、国の基準に達しなくてもこの制度があれば中・後期学部にて上回ると思う。
- 教職員がおなじ目的をもって子ども達の事を考え、朝タイムの時間を活用して試行錯誤しながら色々工夫しながら行っている。
- 自主学习で担任以外の教員もコメントを書き、複数の教員で子どもたちの学習をみるようにし、子どもたちとの関係づくりに役立っている。
- 様々な取り組みを実施、試行錯誤されており、その姿勢が児童に伝わり、とても良い影響となっているのではないかと思う。
- 様々な学習の取り組みや小規模校ならではの子供の顔が見える授業に効果があるのではと思う。
- タブレット学習は、ソフトの見直しが必要だと思う。(特に漢字はなんとなくあっていれば正しく修正される為、意味がないと思う。)
- タブレット授業は現社会において必要なことだが、視力の低下や頭に残らないというデメリットも新聞等で報じられて気になっている。
- 自学自習など家庭学習にも力を入れているにもかかわらず家での学習時間が徐々に減少していることは課題である。
- 学力状況調査の結果が国語、算数とも全国、大阪府を下回っている。
- 授業風景を見させてもらっている限りは年々落ち着いて授業を受けている印象で、子どもたちも意欲的に勉強をしているように思われる。ゆえに、大阪府・全国平均との差は残念だ。国語、算数の基礎学力の向上については、単学級のデメリットもあると思う。先生の数も最小限で、組分けして授業を行うこともできないので現場は大変だと想像できる。
- 5、6年生の小中学校の連携をより図っていく必要がある。
- ☆学力調査の結果は、長期的に見てはどうか。すぐに結果は出ないので、取り組みの継続としてはどうか。
- ☆更なる学力向上をめざして基礎的な学力の定着が確実となるよう取り組んでいただきたい。
- ☆小中一貫教育の強みを生かし、1年生から9年生でなだらかに学力向上が図れるようカリキュラムを考えていければよいのではないかと思う。
- ☆アンケートの回答率が前年より下がっているので方法を再検討してはどうか。
- ☆読書・自宅学習の時間が減っている。推薦図書等の案内をしてはどうか。
- ☆児童アンケートの結果では、「算数の授業はよくわかる」「国語の授業はよくわかる」が肯定的な回答が高くなっているのに何故か？どこに問題があるのか検証すべき。
- ☆主体的に学ぶとはなかなか難しいですが、生活科のような取り組みの中で自分の思いや考えを出し合い折り合いをつけていくことを学んでほしい。

<p>①設定 目標</p>	<p>～はぐくむ～ しなやかな心と体の育成</p>
<p>②本 年 度 の 取 り 組 み 状 況</p>	<p><育てたい資質> *自己を大切に、他者を思いやり、互いの個性や違いを尊重する心 *多面的・多角的に考え多様性を生きぬく豊かな人間性</p> <p><校内研究テーマ> ・小中一貫教育で取り組む「学ぶ喜び」と「しなやかな心」の育成 ・「ことば力」でつくりあげる集団の育成</p> <p><目標達成のための主な取り組み></p> <p>○人権参観 [1～4年] (11月17日) ●各学年の取り組み ・1年 友だちのことを思って、大切にすることの喜びに気づき、友だちと仲良くしようとする心情を育てる。 ・2年 困っている人を温かい心でいたり、互いに助け合っていこうとする心情を育てる。 ・3年 カンカラ三線を作ったことや運動会などからつながって、沖縄が舞台のお話。生命は過去からつながっていることを知り、生命を大切にしようとする心情を育てる。(日程延期 12月20日実施) ・4年 友だちと互いに理解し合い、友だちのことを考えて行動しようとする心情を育てる。</p> <p>○朝タイムを活用した集団づくり [1～4年] 火 児童朝会 (不定期) 委員会活動の報告などを行う 金 朝レク (クラスで一緒に何をして遊ぶかを決めるところから決め、活動の振り返りを行うことを通して集団づくりを進める)</p> <p>○つながりタイム [全学年] 各学年の人権学習や集団づくりの取り組みや学びを他学年へ発表する機会をとおして、自分たちの取り組みを評価してもらい、自己有用感を高める機会とする。</p> <p>○ゲストティーチャーによる授業など ●交通安全教室 [1・3年] (5月1日) 【講師】豊能警察署の方 ●習字 [3～6年] (5月16日、7月4日、9月12日、11月7日、2月6日) 【講師】新貝廣二さん ●火災避難訓練 [1～4年] (5月24日) 【講師】消防署東出張所の方 ●ダイハツものづくり体験教室 [5・6年] (6月14日) 【講師】ダイハツの方 ●非行防止教室 [5年] (12月8日) 【講師】池田少年サポートセンターの方 ●非行防止教室 [6年] (12月8日) 【講師】豊能警察署の方 ●食育 [5年] (10月17日) 【講師】豊能町食生活改善推進員協議会の方 ●オイスカの研修生と交流 [全学年] (7月3日)</p>

	<p>【研修生】4人（フィリピン、マレーシア）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●車イス体験学習〔4年〕（10月16日） 【講師】豊能町社会福祉協議会の方 【内容】車イス体験を通して利用者への理解を深め、みんなが過ごしやすい社会をめざす思いを育むことを目的に、バリアフリーや自身に取り組めることについて考えた。 ●郷土資料館見学〔4年〕（11月8日） ●芸術鑑賞 能楽囃子〔全学年〕（11月9日） 【公演者】阪神能楽囃子連盟調和会の方 ●防災倉庫見学〔4年〕（11月17日） ●プログラミング教室〔全学年〕（11月20日、12月1日・18日・19日） 【講師】山中貴史さん ●キャリア教育〔6年〕 【講師】織田美穂さん〔イルカの調教師〕（2月6日） 【講師】岡崎陽一さん〔コンビニ経営者〕（2月21日） ●認知症サポーター養成講座〔4年〕（2月予定） 【講師】社会福祉協議会の方、地域包括支援センターの方、豊能町認知症キャラバン・メイトの方 <p>○クラブ活動〔4～6年〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ●小学校校舎で4～6年が「屋内スポーツ」「屋外スポーツ」「コンピュータ」「ハンドメイド・アート」に分かれ、クラブ活動を行った。 <p>○委員会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ●児童会 運動会スローガン作成、運動会児童会種目の検討、イラストコンテスト、児童会生徒会交流会 ●健康美化委員会 ミニスポーツ大会（リレー、棒引き） ●図書放送委員会 おすすめの本紹介 <p>○校外学習、宿泊学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1・2年 京都水族館 ●3・4年 堺市総合防災センター ●5年 湖畔学習（びわ湖） ●6年 修学旅行（広島） <p>○体づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ●帯トレーニング 体育の授業で準備運動を兼ねて5分程度の帯トレーニングを年間とおして実施。持久力、柔軟性、敏捷性を伸ばせるように実施。 ●ペースランニング 体づくりの一環として持久力を養う。体育の学習等で練習して、自己の記録への挑戦の仕方を工夫する。
<p>③ 学校教育自己診断・授業評価 ④ 量的評価 ⑤ 質的評価 ⑥ 定性的評価 ⑦ 自己評価</p>	<p><学校教育自己診断の結果より></p> <p>※（今年度←昨年度の肯定的な回答の数値）</p> <p>肯定的な回答：「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計値</p> <p>※構成比は端数処理の都合上、合計は必ずしも100%とはなりません</p> <p>※令和4年度から「分からない」という選択肢をなくしています</p> <p>保護者アンケートの結果において、特に学力向上に関わる項目について肯定的な回答（そう思う、どちらかといえばそう思う）は下のおりである。</p> <p>「子どもは、楽しく学校生活を送っている」（95%←95%）〔下図〕</p> <p>「学校は、児童が協力し合って取り組む機会を持ち、仲間との「つながり」を育んでいる」</p>

(96%←97%)

「学校は、子どものことで困ったとき相談にのろうとしている」(85%←79%)〔下図〕

「学校は、いじめのない仲間づくりに取り組んでいる」(78%←75%)

「子どもたちは、あいさつしたり感謝の気持ちを伝えたりしている」(89%←86%)

「子どもは、自分のよいところに気づいている」(75%←73%)



児童アンケートの結果において、同じく肯定的な回答は下のとおりである。

「学校は、楽しい」(90%←83%)〔下図〕

「学校で、友だちと協力して何かに取り組むことは楽しい」(95%←90%)〔下図〕

「学校で、友だちや先生にあいさつをしている」(87%←78%)

「体育の授業や行事で、運動がうまくできるようになった。」(89%←83%)

「学校には、こまったことや体のことなどを相談しやすい先生がいる」(91%←86%)

「先生たちは、いじめやこまっていることについていっしょに考えようとしてくれている」(94%←89%)

「自分にはよいところがある」(76%←64%)



児童一人ひとりと向き合うことを大切にして信頼関係を築いていくことを意識している。また、集団づくりにおいて、個々のよさを活かしながら仲間とのつながりを育めるような活動をつくりあげたいと考えている。また、地域の方、外部講師の方の力をかりて体験活動を積極的に取り入れ、その中から学習へのつながりをもたせることで、より深い学びに発展させていくことをめざし、取り組みを進めている。

「自分にはよいところがある」という質問の肯定的回答が今年度は 76%と昨年度に比べ 12%あがってはいるが、さらに自尊感情が高まるように各種取り組みを進めていきたい。

<新体力テストの結果より>

- 握力、ソフトボール投げにおいて、全国平均を上回っている学年が多い。
- 反復横跳び、立ち幅跳びにおいて、全国平均を大きく下回る学年が多いことから、「敏捷性」「瞬発性」に課題がみられる。
- 課題である「敏捷性」「瞬発性」を高めるために、帯トレーニングで音楽に合わせたサーキットトレーニングや、なわとびカードを作成し自主的ななわとびに取り組む意欲が高まるように活動などを行った。

(○) 評価できる点 (●) 課題とする点 (☆) 提言など

- おおむね子どもたちのアンケート結果は良好で、先生方の姿勢、イベントへの取り組みが評価に値する。
- 年間を通してゲストティーチャーによる授業が行われていて、知識、経験、多様性などを学ぶ機会がある。
- 「児童の自分には良いところがある」や保護者の「子どもは自分の良いところに気づいている」という質問に対して肯定的評価が年々向上している。ゲストティーチャーによる授業など様々な人との出会いでたくさんの価値観に出会うことからの結果であると考える。
- 児童アンケートにおいて、肯定的な意見が増加している。先生方の関わりや、友だちとの関わり、地域との関わりなど様々な経験や関わりが自尊心や自己肯定感を高めることにつながっている。
- 学校が楽しい場所であることは最も重要なことであると考え。その点において児童、保護者とも肯定的回答が増加していることはさまざまな取り組みの結果であると評価できる。
- 先生が、わかる子、できる子に合わせ授業を行わず、今やられている各子どもの個性を引き出しながら行う、今やられている「授業を創る」を今後もお願いしたい。
- 「学校が楽しい」など肯定的な意見で、子ども達も先生方に寄り添って信頼関係が出来ていると思う。
- 色々な行事を取り入れながら、この自然環境の中で子ども達が楽しく学び経験や体験が多い。
- ゲストティーチャーによる授業をたくさん取り入れている。
- ゲストティーチャーが豊富。
- 「学校は楽しい」「学校で友達や先生にあいさつしている」「相談しやすい先生がいる」「先生たちは一緒に考えようとしてくれている」「自分にはよいところがある」の質問の肯定的な回答が高くなっている。
- つながりタイムの他学年への発表は、視野が広がりとても良い取り組みだと思う。
- つながりタイムが前年度より多かったと思う。
- 他学年との交流もあるけど、発表に向けての準備など、仲間と協力して作りあげるという点もよいと思う。
- 体力テストの結果が全国平均を大きく下回る学年が多い。
- クラブ活動に関しては、やはりできる事が限られているので残念。
- 少人数ゆえにクラブ活動が制限され、それが全体の体力低下の結果につながっている。
- 体力維持には子どもの体調不良などは仕方ないが、集団登校に参加させる事も必要なのではないか。
- ☆ P4C を月1回など、継続的に取り入れてみてはどうか（例えば朝レクなどで）。継続的に行うことで、より深く友達を認め合うことができるようになるのではないか。
- ☆ 少人数ゆえにクラブ活動が制限され、それが全体の体力低下の結果につながっているのではないか。
- ☆ 学校側はいろんなことを行っているとは思いますが、子どもたちがもっと楽しめるような企画を工夫して取り入れてほしい。
- ☆ 友だちとの繋がりは深いように感じているが、0～15歳まで変わらない人間関係の中でふとした事で崩れた時、誰がどのようにサポートしていくか…。近くにいる大人が支えられるようにしたい。
- ☆ すべての子どもたちにとって今後も学校が楽しい場所になっていけるようたくさんの教師がかかわりいろいろな価値観で多様な取り組みをしていただけたら良いのではないかと思う。

①設定 目標	～つながる～ 保護者・地域・保幼小との連携
②本 年 度 の 取 り 組 み 状 況	<p><家庭・地域との信頼関係の構築> *家庭・地域との信頼関係構築のもと、協働で進める教育活動と情報発信による開かれた学校 *持続可能な学びの場を提供する地域とともにあるコミュニティ・スクール</p> <p><保幼小中との連携> *東地区保幼小中一貫教育の理念に基づくふたば園との連携と小中一貫教育校の構築 *豊能町に誇りを持ち自己肯定感を高める取り組み ― 保幼小中合同運動会の実現</p> <p><目標達成のための主な取り組み></p> <p>○PTA 主催 <u>人権講演会 (11月17日)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●1～4 年児童、保護者 (前期学部校舎) ●5～9 年児童生徒、保護者 (中後期学部校舎) 【講師】篠原嘉一さん (NIT 情報技術推進ネットワーク (株)) 【テーマ】スマートフォンに潜む危険～その仕組みを知ることによって防げる被害～ 【内容】スマートフォンで使用する児童生徒も利用しているアプリがどのような機能を有し、どのように活用することが安全であるかについて。 <p>○<u>地域の方にご協力いただいた主な取り組み</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●お話の会「ひまわり」による読み聞かせ (月2回) 【公演者】「ひまわり」のみなさん ●ひょうたんドームづくり [4年] (5月23日) 【講師】トヨノ部 【内容】4年がひょうたんを育てるためのヒョウタン棚の作成 ●だいやす見学 [3年] (6月30日) ●七夕の笹飾りの笹の提供 【提供】トヨノ部 ●山口食品見学 [3年] (7月6日) ●染め物体験、運動会の衣装づくり (7月14日、9月11日) 【講師】オオニシカナコさん (染織家) 【内容】1・2年 特定外来生物オオキンケイギクで染物 3・4年 藍染め トヨノ部が豊能町で育てた藍でハチマキを染めた ●山口食品の畑見学 [3年] (10月7日) ●科学実験教室 [4・5・6年] (10月20日) 【講師】夢 LABO・豊能科学工作教室のみなさん 【内容】4・5・6年生が4グループに分かれ、「消化の仕組み」「ビタミンCの量を調べよう」「エネルギーのうつりかわり」「運動場の砂から宝石をさがそう」の4つのコーナーを順番に回り、科学について学んだ。 ●芸術鑑賞 おととえ座さん公演 [全学年] (10月24日) 【公演者】おととえ座 【内容】影絵、音楽、歌やクイズを生演奏とともに披露いただいた。 ●法性寺の見学 [3年] (10月30日) ●焼いも [1年] (11月7日) 【協力】学校サポーター 【内容】粃殻を使った焼き芋を実施。学校サポーターさんに協力いただき、自分たちで植えて、育て、掘りおこしたサツマイモを焼いもにしていただいた。 ●朝川寺の見学 [3年] (11月15日)

- 竹で打楽器作り、音楽、発表〔4年〕（11月21日、12月20日）
【講師】SHUさん（ハンドパン奏者）
- しめ縄づくり〔5年〕（12月7日）
【講師】地域の方、トヨノ部
【内容】児童が育てたもち米の稲藁を使ってしめ縄づくりを実施。しめ縄の由来を学び、しめ縄をない、東能勢校区でとれた自然の葉や実を使って飾り付けを行った。
- 志野の里の見学〔5年〕（12月15日）
【内容】3学期に5年生が発案した「とよの定食」のレシピを作成し、志野の里で配布してもらう予定。
- Café LAID-BACK、EMMACOFFEE、JOZU+の見学〔3年〕（12月15日）
- 特産品を使ったお土産をつくろう！〔5年〕（12月15日から販売）
【協力】Café LAID-BACKさん
【内容】発案した「しし肉カレー」をレトルトカレーとして商品化し、「猪すじ肉カレー」を販売。
- 昔遊び〔1年〕（1月31日）
【講師】地域の方
【内容】こままわし、ヨーヨー、べったんなどの遊びを教えていただいた。
- 味噌づくり〔4年〕（2月予定）
【講師】切畑夢工房
【内容】児童が育てた大豆を使い、味噌づくりに挑戦する。1年寝かせた味噌を使い5年の調理実習で味噌汁を作る予定。
- 木育〔5年〕（2月5日）
【講師】加羽英吾さん（大工）
【内容】社会科の「森と生活」の授業の一環として、豊能町の木の種類、大工のお仕事、山に放棄されたゴミなどの環境問題や土砂災害などについて伺った。
- 食育〔5年〕（2月16日）
【講師】山上忠彦さん（オーベルジュオーナー、猟師）
【内容】シカやイノシシが農作物に与える影響やその被害から作物を守るために活動されている猟師のお仕事について、また、いただくことへの感謝の気持ちを食育につなげてお話いただいた。
- 納豆のラベルづくりに挑戦！〔3年〕（3学期販売予定）
【講師】山口宗太郎さん（山口食品）
- 豊能町東地区マップづくり〔3年〕（3学期）
【協力】豊能町観光協会

○地域の方にご協力いただいた取り組み（環境整備）

- 学校サポーター「花植え隊」による花壇整備（不定期）
- PTA 大掃除（7月19日、12月21日）
- 運動場の環境整備「草刈り DAY」（5月27日、8月26日）

○情報発信の充実

学校だよりを小中で統合し、小中の活動を見やすくするよう取り組んだ。
これまでの情報発信に加え、東能勢小中学校のブログ、インスタグラム、フェイスブックによる日々の活動の発信を行った。また、SE（スクールエンパワーメント）通信を二月に1回程度の頻度で発行を行った。
児童生徒の取り組みを新聞社などに報道提供し、新聞に掲載された。

○わくわく KID' S

- わくわく 放課後
地域の方が、放課後に学校の施設を活用して子どもたちの居場所を確保し、異学年で楽しい時間を過ごし、宿題を中心とした学習活動と校庭開放を実施した。
- わくわくイベント
今年度、おおさか元気広場の企業・団体による活動プログラムの一環で出前プログラム

	<p>を活用するなど、体験の講座を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かゆ～いだけじゃない！？身近な害虫のことを知ろう！～ 金鳥（6月9日） ・水素自動車試乗体験 中西金属工業さん（6月20日） ・クイズで学ぼう！正しいシャンプー法 リーブ21さん（7月12日） ・おなか元気教室 ヤクルトさん（9月12日） ・アートな水曜日「校舎でこぼこ図鑑」「色をコレクションしよう」 オオニシカナコさん（染物作家）、キタワキヒロシさん（作業療法士）（12月1日、2月28日） <p>●わくわくナイト～月の観測と夜の学校探検！～（8月2日） 今年度は参加対象に4年を加え、4・5・6年生を対象に夏休みの夕方から、前期学部校舎を使って、学校探検、月の観察、スタンプラリーや和太鼓チーム「太鼓組爽風（かぜ）」による太鼓演奏の鑑賞などを行った。保護者の方、地域の方の協力をえて、実施することができた。</p> <p>○<u>保幼小中連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●教職員間で小中一貫、運動会、東能勢フェスタの3つのプロジェクトチームを発足し、小中間の活動の連携を推進した。 ●1・4・9年交流、9年から4年へ修学旅行で学んだことの報告 ●1～9年交流 小中合同運動会のスローガンが発表（7月18日） ●運動会結団式 青団と赤団のそれぞれのチームで結団式、その後両団で交流（8月28日） ●小中合同ピックアップ訓練（9月1日） ●5・7年コラボ授業（理科）（9月21日） 7年生が5年生へ顕微鏡の使い方を教えた。 ●小中学校合同運動会（9月28日） 今年度で2回目となる東能勢小中学校合同運動会を開催した。ふたば園の園児向けのプログラムを設け、運動会に参加してもらい、保幼小中の連携を図った。 ●折り鶴を広島へ 1～9年で折った折り鶴を6年が修学旅行で広島平和記念公園へ捧げた ●1・2・3年がそれぞれ、ふたば園の園児と交流 <p>○<u>小中一貫校研究指定 教職員研修</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●小中合同研修（8月7日） 【講師】佐久間敦史さん（大阪教育大学准教授） ●公開授業、小中合同研修（9月8日） 【公開授業】 9年 社会科 山野 【講師】山口偉一さん（関西福祉大学教授） ●公開授業、小中合同研修（10月2日） 【公開授業】 2年 国語科 芦田 【講師】増田ゆかさん（大阪学院大学講師） ●公開授業、小中合同研修（1月18日） 【公開授業】 3年 総合 池田 【指導助言】佐久間敦史さん（大阪教育大学准教授） ●小中合同研修（3月25日） <p>○<u>教職員研修</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●不審者対応訓練（8月29日） 【講師】豊能警察の方
<p>断 的 評 価 及 び 定 性 的 自 量</p> <p>③ 学校教育自己診断</p>	<p><学校教育自己診断の結果より></p> <ul style="list-style-type: none"> ※（今年度←昨年度の肯定的な回答の数値） 肯定的な回答：「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計値 ※構成比は端数処理の都合上、合計は必ずしも100%とはなりません ※令和4年度から「分からない」という選択肢をなくしています <p>保護者アンケートの結果において、特に学力向上に関わる項目について肯定的な回答は下の</p>

とおりである。

「学校は、保護者や地域の方々と協力して教育活動を進めようとしている」(94%←96%)〔下図〕

「小中一貫教育校になって、よさを感じる」(57%←50%)

「1～9年生と一緒に学校生活を送ることや行事を行うことは、子どもたちの成長につながっている」(79%←73%)〔下図〕

【5・6年生の保護者のみ回答】5・6年生が教科担任制になったことは、学力向上につながっている」(89%←81%)



保護者や地域の方に協力いただき様々な取り組みを進めさせていただくことができています。

探究的な見方・考え方を働かせ、具体的な活動や体験、教科学習と連動した横断的・総合的な学習を行うことを通して、生活の場である身近な地域「とよの」への理解を深め、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えるための資質・能力の育成をめざしている「とよの未来科」。

東能勢小学校では「とよの未来科～東能勢 style～」として、東能勢小学校校区の人材・もの・文化などの豊富な資源を最大限に活かし、子どもたちが体験活動をとおして、自ら学び自ら考え自ら発信する力の育成や、自信と誇りの育成をめざし、取り組みを進めていきます。



「小中一貫教育校になって、よさを感じる。」の質問について、理由とのクロス集計を行った。また、中学校校舎で活動を行っている5・6年の保護者のみの集計も行った。

小中一貫校になって、よさを感じる。		そのように感じたのはどのような点ですか。(複数回答あり)				
		学習面	生活面	子どもどうしの交流	その他	わからない
とてもそう思う	14.6%	34.8%	26.1%	39.1%	0.0%	0.0%
どちらかといえばそう思う	41.5%	11.6%	18.6%	67.4%	2.3%	0.0%
どちらかといえばそう思わない	26.8%	18.2%	33.3%	18.2%	24.2%	6.1%
そう思わない	17.1%	29.0%	32.3%	16.1%	12.9%	9.7%
合計	100.0%	21.5%	26.9%	37.7%	10.0%	3.8%

【5・6年保護者】 小中一貫校になって、よさを感じる。		そのように感じたのはどのような点ですか。(複数回答あり)				
		学習面	生活面	子どもどうしの交流	その他	わからない
とてもそう思う	15.4%	50.0%	12.5%	37.5%	0.0%	0.0%
どちらかといえばそう思う	42.3%	21.4%	21.4%	57.1%	0.0%	0.0%
どちらかといえばそう思わない	26.9%	0.0%	20.0%	30.0%	40.0%	10.0%
そう思わない	15.4%	25.0%	37.5%	12.5%	12.5%	12.5%
合計	100.0%	22.5%	22.5%	37.5%	12.5%	5.0%

全体の肯定的な回答は56.1%、5・6年保護者の方は57.7%でほぼ同じ割合である。また、5・6年の保護者の「とてもそう思う」を選択した理由としては学習面50%、子どもどうしの交流37.5%。「そう思わない」を選択した理由は「生活面」が37.5%、「どちらかといえばそう思わない」を選択した理由は「その他」が40%。

その他の理由で「5、6年の校舎間移動が多い」「給食を食べなくなった」「下級生より下校時刻が早い」「校舎が分かれており、一貫の良さを実感できていない」「教科担任制は素晴らしい」「運動会はより見応えがある素敵なものになっている」などの意見があった。小中一貫教育校になった強みを発信していくとともに、改善すべき点については具体的な検討を順次進めていく。

児童アンケートの結果において、同じく肯定的な回答は下のとおりである。

「地いきの人たちは、学校のことにいろいろ協力してくれている」(96%←93%)

「【3・4年生のみ回答】運動会などの行事や委員会活動のなかで、下級生の目標やお手本になることを意識しましたか」(92%←83%)

「運動会などの行事や児童生徒会活動の中で、上級生を目標にしたりお手本にしたりしましたか」(83%←73%)

「【5・6年生のみ回答】授業などで、小学校の先生だけでなく、中学校の先生など多くの先生が関わってくださることはよいことだと思いますか」(92%←78%)

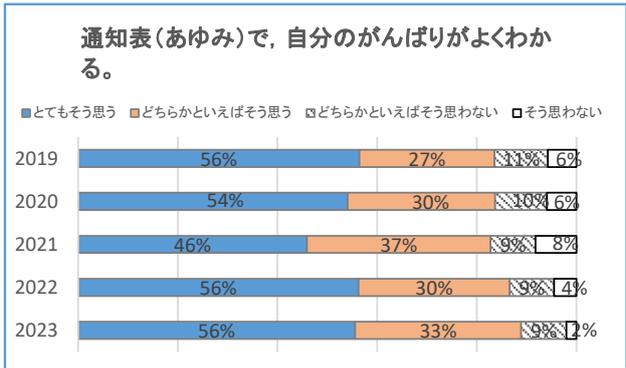
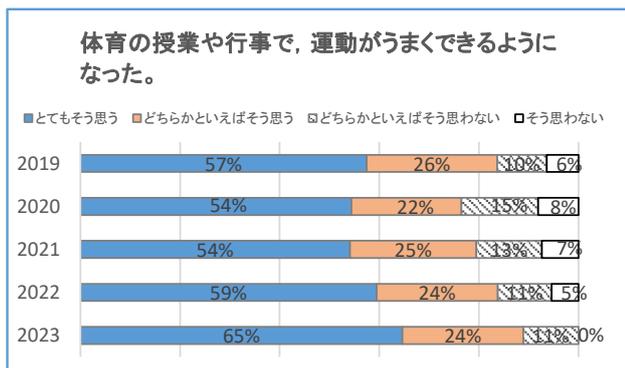
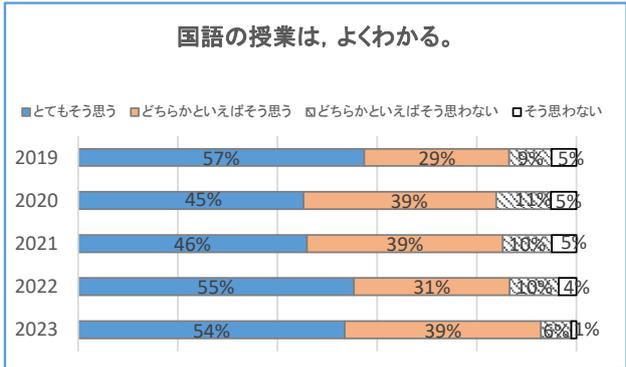
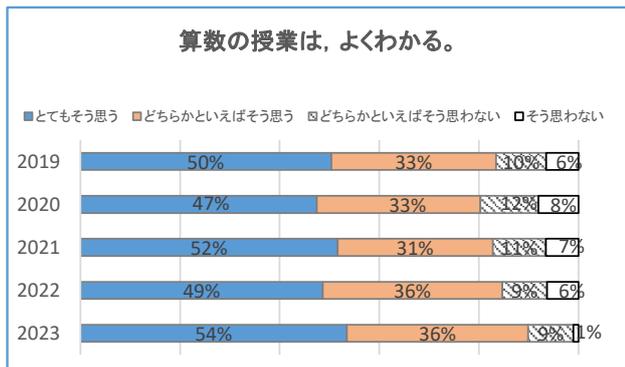
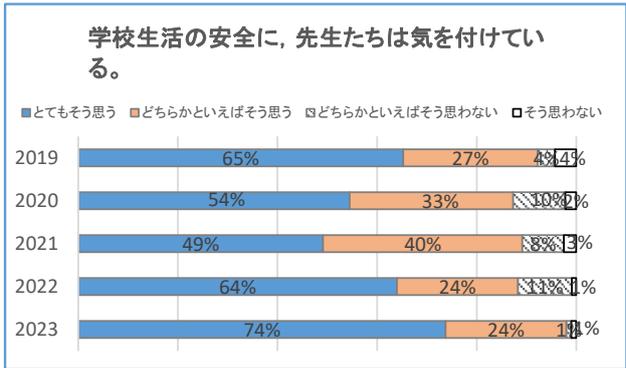
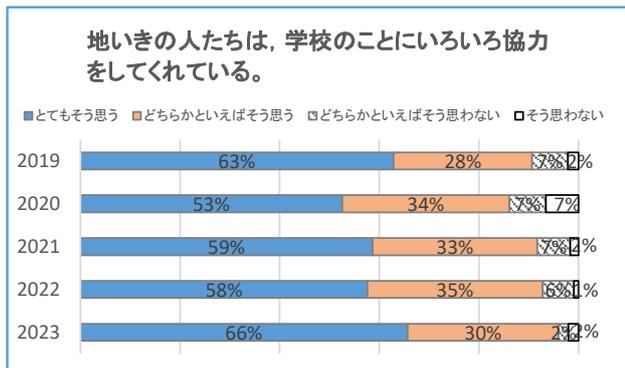
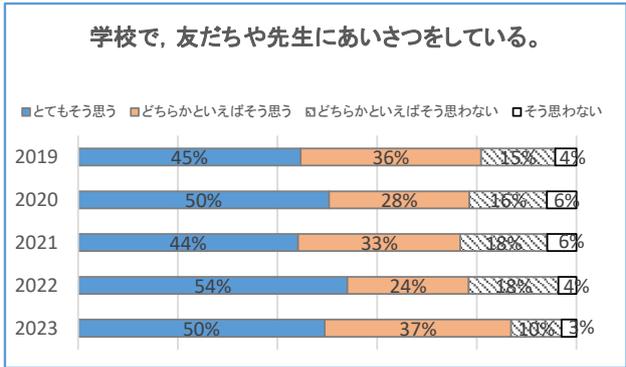
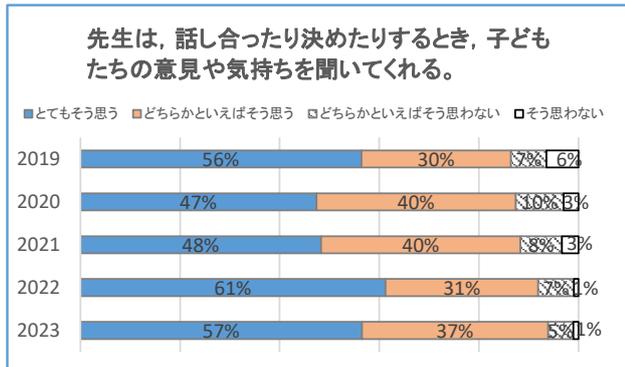
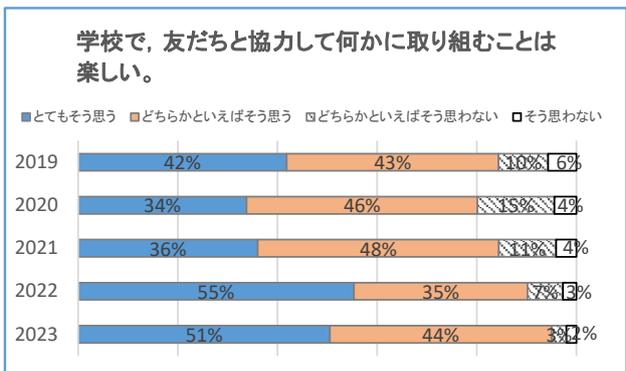
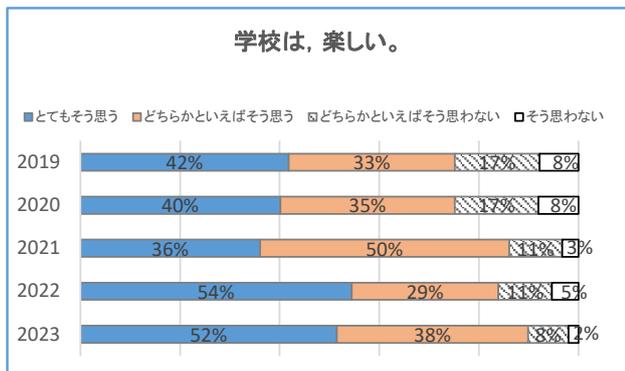
「【5・6年生のみ回答】小学生と中学生と一緒に活動することはよいことだと思いますか。」(86%←68%)

地域の方が学校への協力をいただいていることを児童も認識をしているが、さらに感謝の気持ちを持ち、気持ちをどのような形で表現できるかなどを主体的に考えることができるように取り組んでいきたい。そのことで、地域の方の協力をより感じる事ができるようになるのではないかと考える。さらに発展して、自分たちにとっての社会である学校の中で自分たちにはどのようなことができるのか考える機会を創出していきたい。

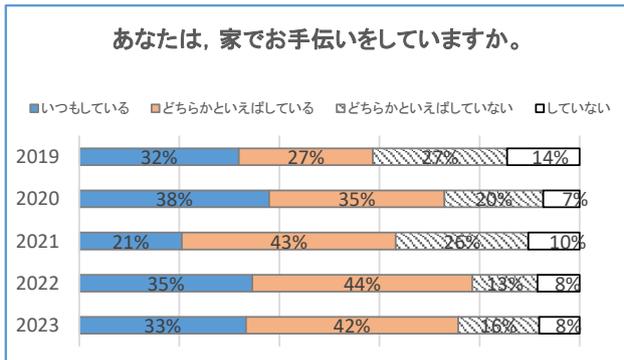
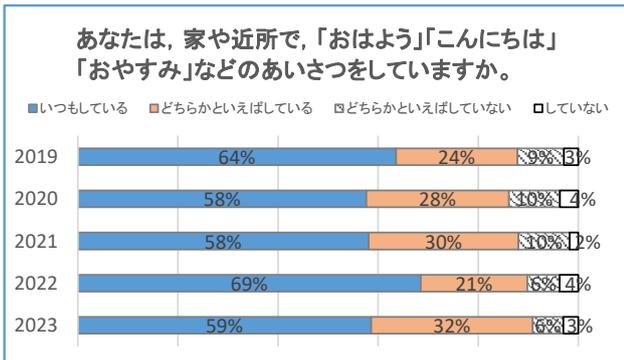
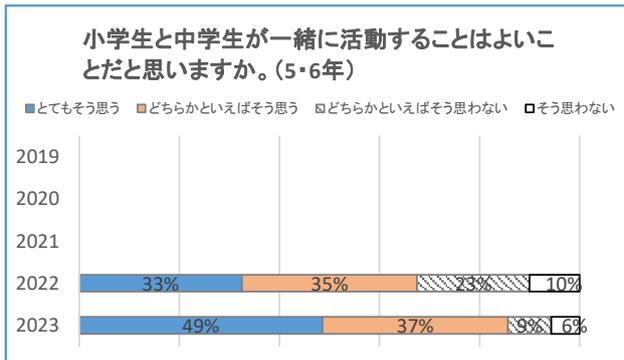
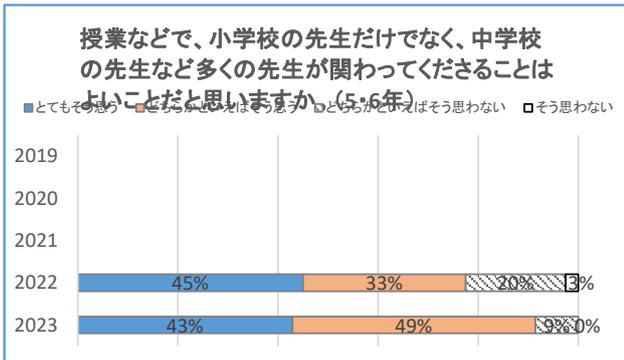
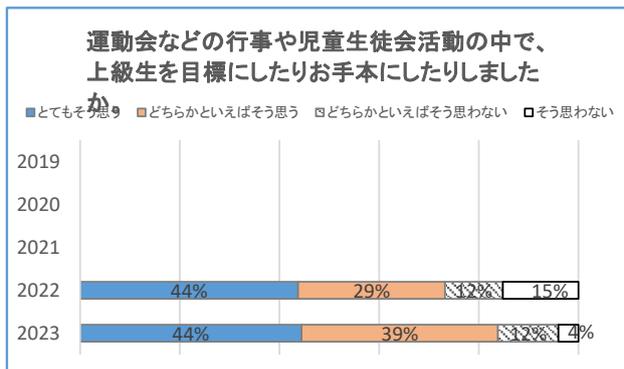
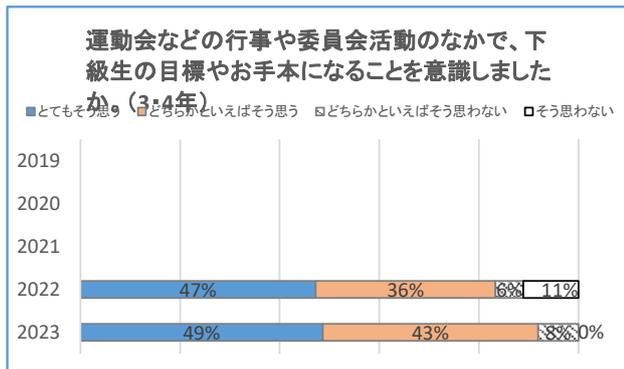
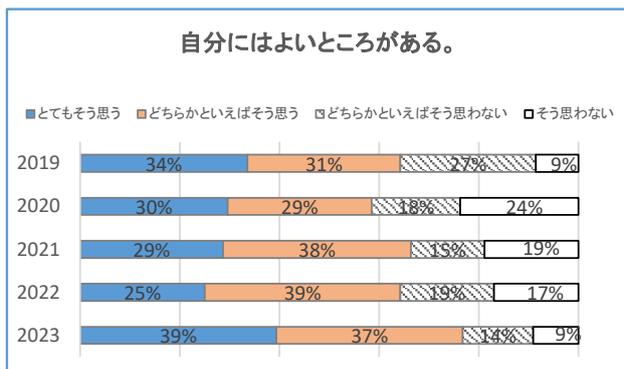
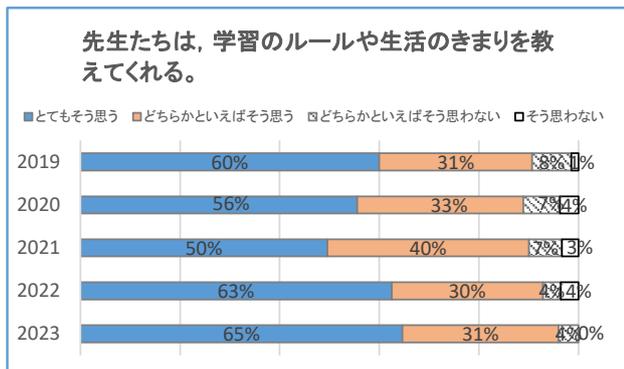
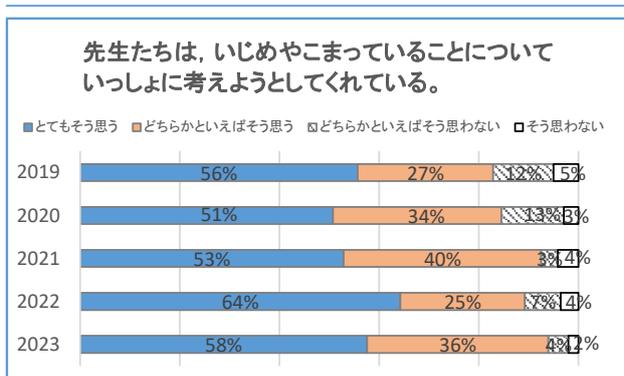
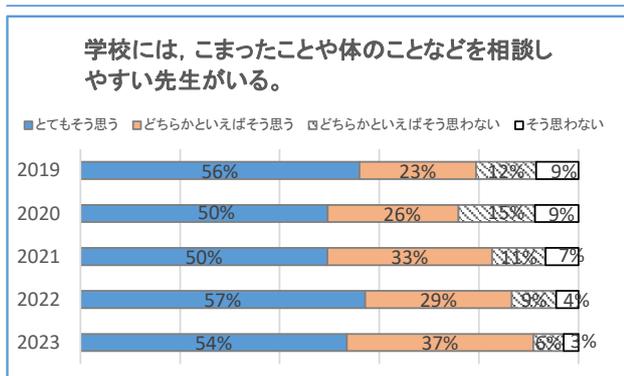
④ 学校関係者評価（学校運営協議会等からの提言）

(○) 評価できる点 (●) 課題とする点 (☆) 提言など

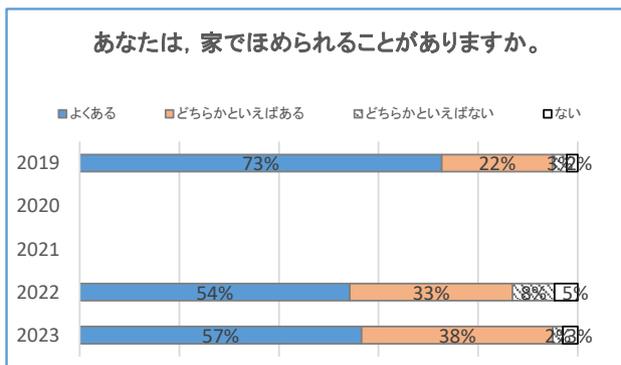
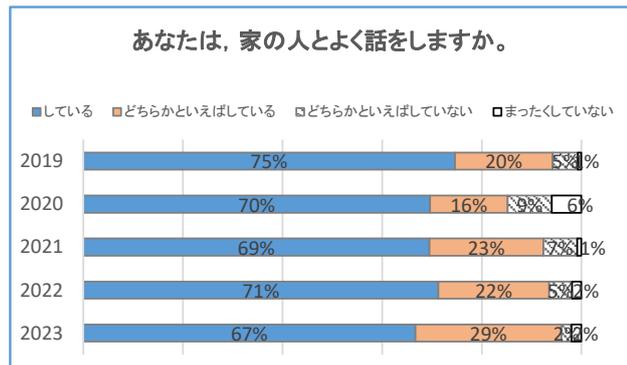
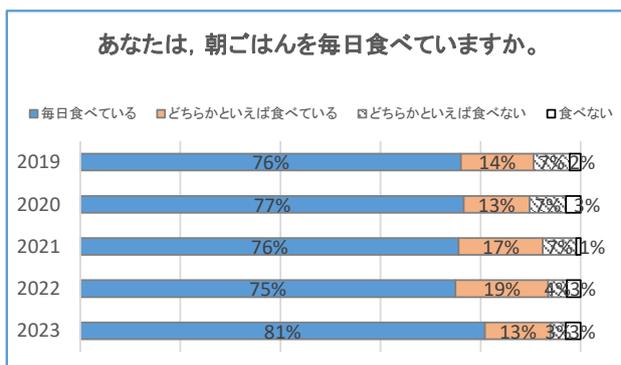
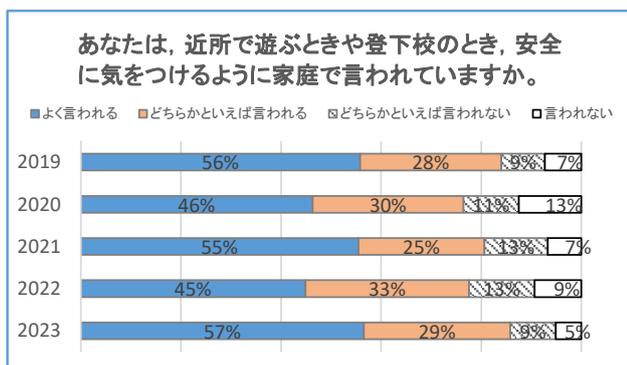
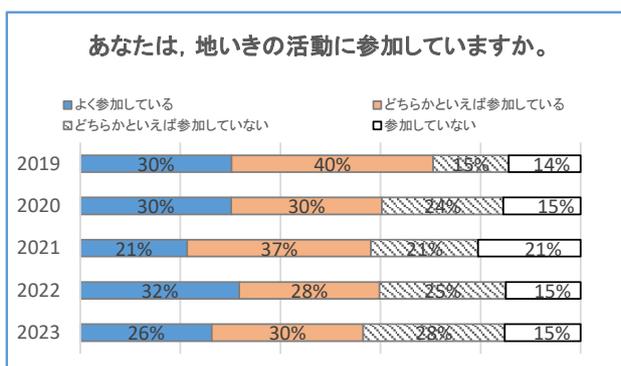
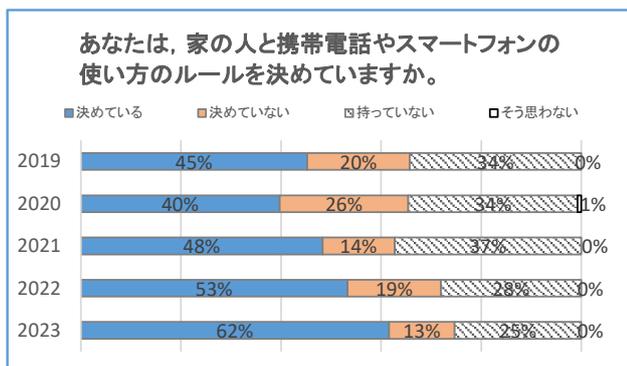
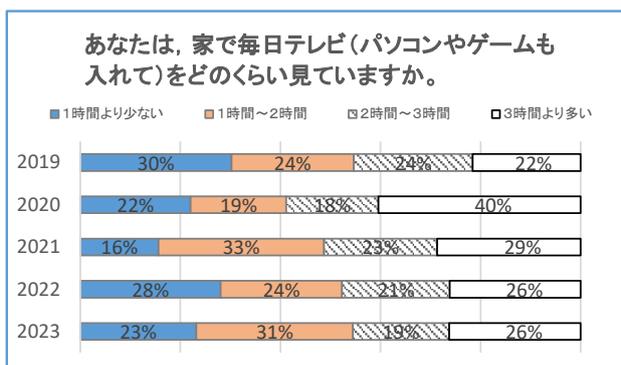
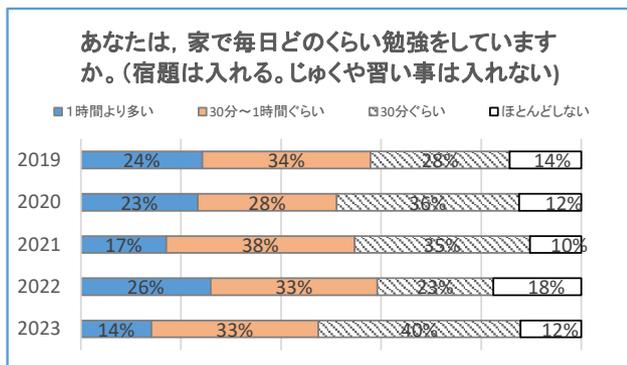
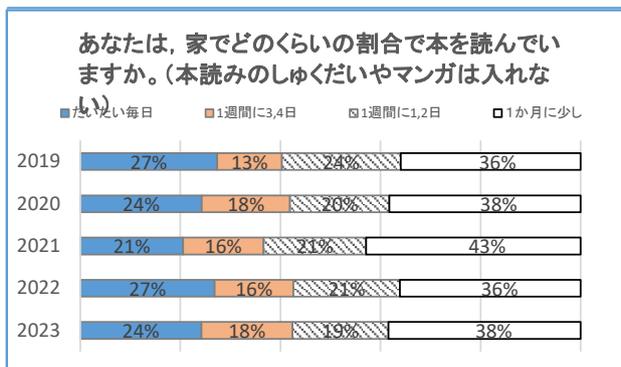
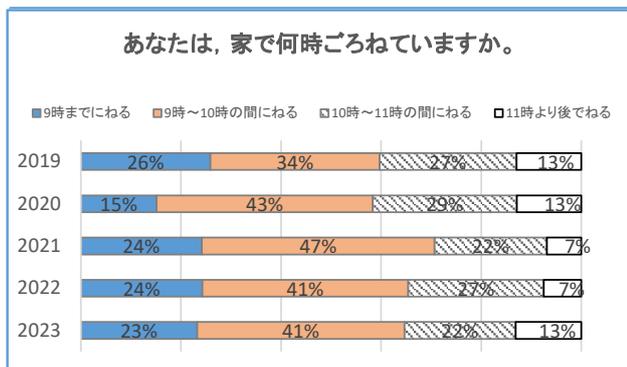
- 情報発信の充実が素晴らしいと思う。保護者の皆さんの関心度も高く、高評価に値する。
- HP・インスタなど、カラーでとってわかりやすく毎回楽しみにしている。
- わくわく KID'Sも充実した内容が行われており、とても良い。
- 小中一貫に関する評価が子どもたち、保護者共に上向きなのはとても素晴らしい。
- 年間をとおして様々な地域の方が学校に協力してくださっている。児童にとっては貴重な経験になると共に地域の方に受け入れられて、見守ってくださっている安心感や感謝の気持ちも育まれ、自尊心の向上にもつながる。
- 多くの地域の方々に授業にかかわっていただくことで地域の良さを感じることができている。
- 小中一貫になって良さを感じるとの回答が昨年と比較して肯定的回答が増加していることは評価できる。さらに向上していくよう小中の垣根をとりはらってそれぞれの良いところを寄せ合わせて取り組んでいってほしい。
- 小中一貫2年目、全般にわたって小中の教員がお互いに知恵を出し合って新しい取り組みに発展していっていることが子どもたちにも伝わっている。
- 先生方が、小中一貫という町の方針に則し、前向きに進まれたことが中学校、小学校の一体化が成しえたことと感じます。
- 一貫校が始まり2年目となるが、保護者アンケートから学習面や子ども同士の交流において「良さ」を感じられる結果が出た事。
- 学校・地域がつながると言うことは、子どもの様子もわかり縦横のつながりも出来ており、地域の方々のかかわりで子ども達は多くの体験や活動を経験している。
- 草刈りを係として残したのはよかった。
- 地域とつながる取り組みをたくさん取り入れている。
- 保護者アンケートの結果で「小中一貫教育校になってよさを感じる」「1～9年生と一緒に学校生活を送ることや、行事を行うことは子どもたちの成長につながっている」の質問の肯定的な回答が高くなっている。
- 地域の方が学校へ協力をいただいていることを児童は認識している。
- 地域で活躍されている方に出会える機会が多く、とても良い。
- 地域の方や保護者に活動内容がもっともっと伝わると良いと思う。
- 大掃除・草刈りは、係以外の保護者の人数が少なく残念。
- ☆「とよの未来科～東能勢 style～」子どもたちがいろんな活動をとおして自ら学び、考え、発信できる場面を作っていってほしい。
- ☆学校方針を、いかに保護者を巻き込み地域が貢献出来るか、協議会の役割も重要となる。
- ☆CSからも充実した発信が出来るようこれからも努力したい。
- ☆0～15歳の子どもたちを保幼小中の先生方が連携し共有して行ってほしい。
- ☆この地区に暮らす0～100歳迄の人が学校を介してつながっていたらステキです。



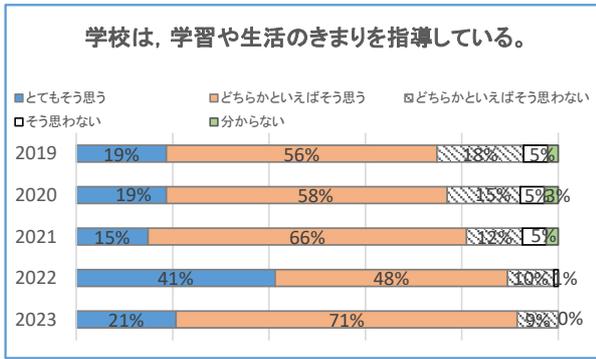
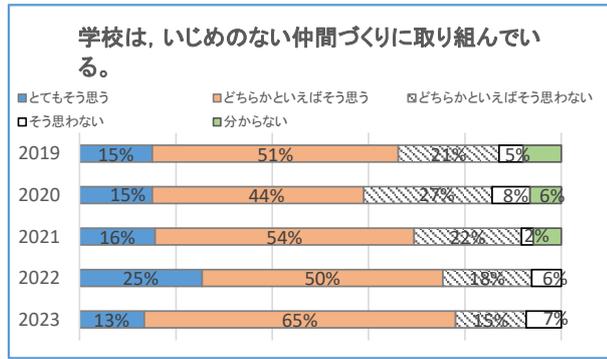
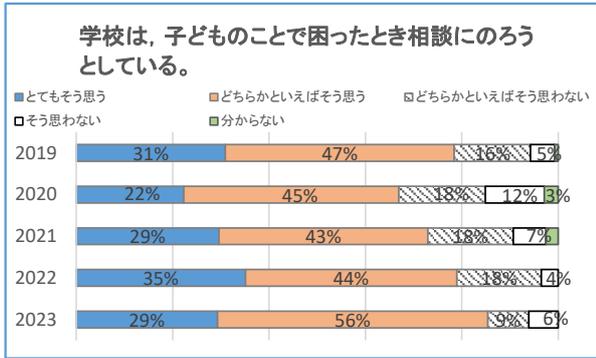
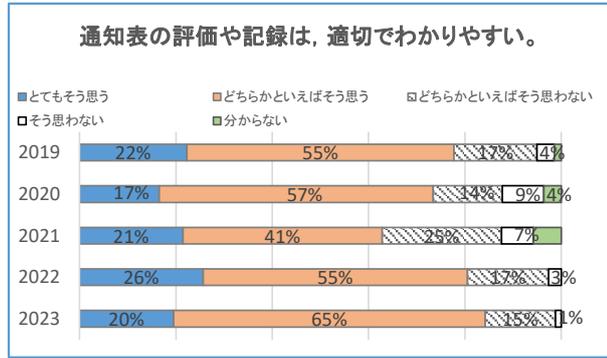
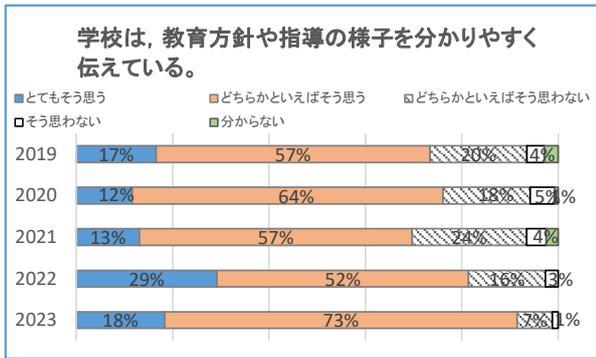
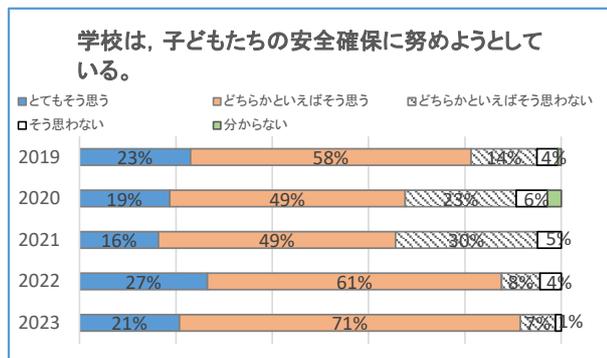
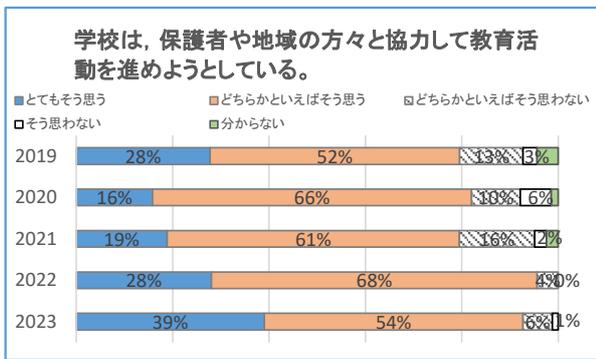
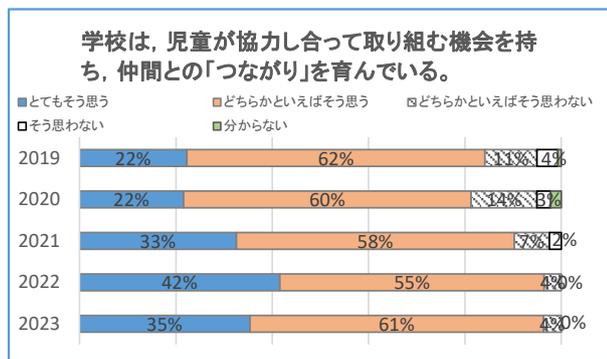
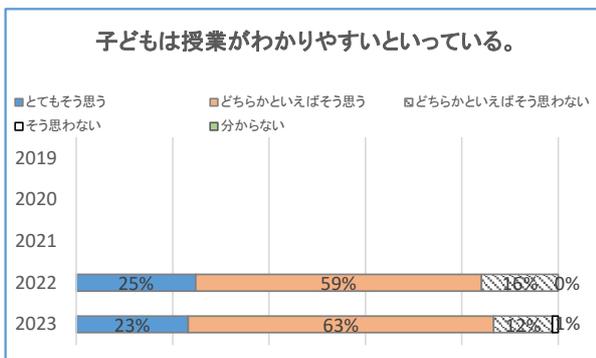
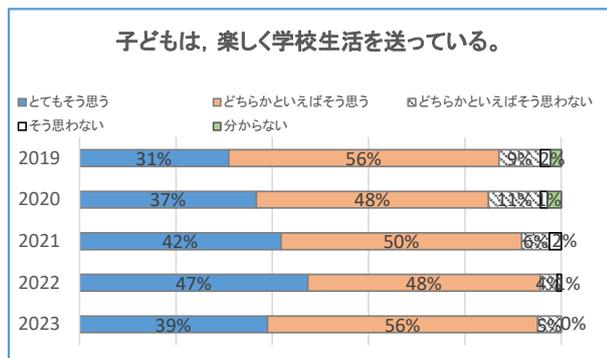
令和5(2023)年度学校教育自己診断【児童】 アンケート結果一覧



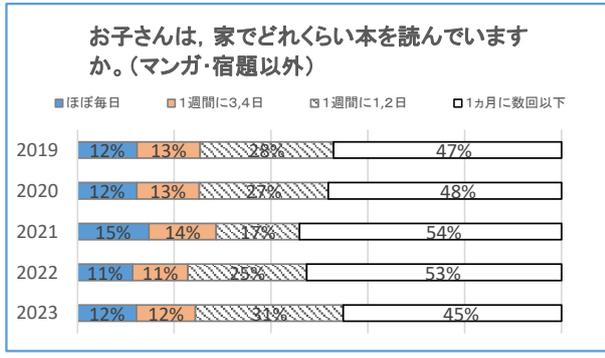
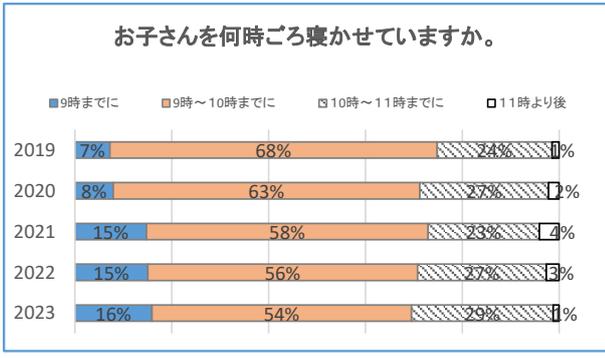
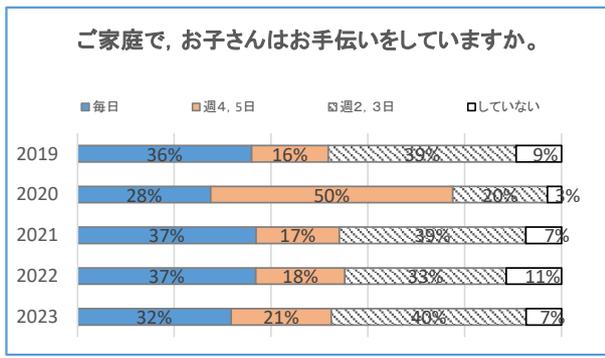
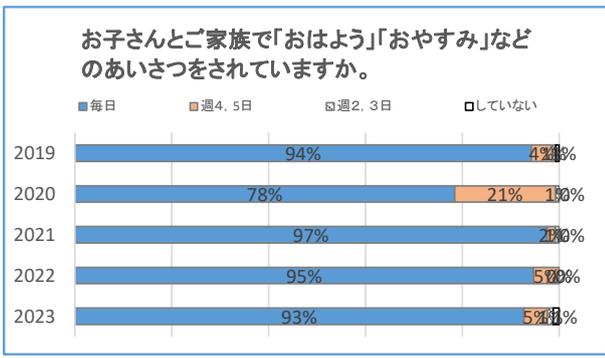
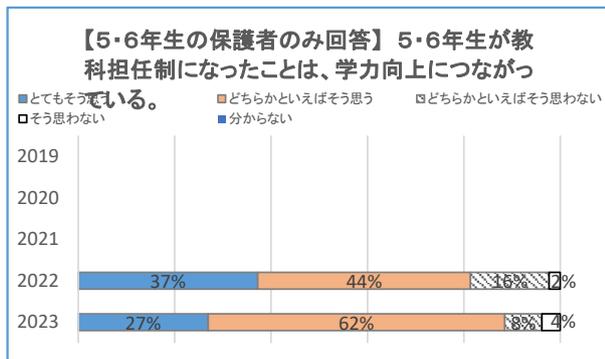
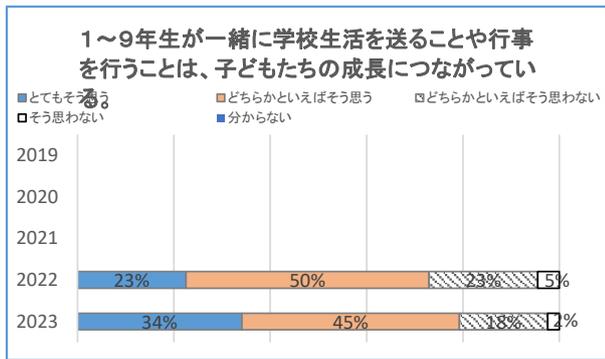
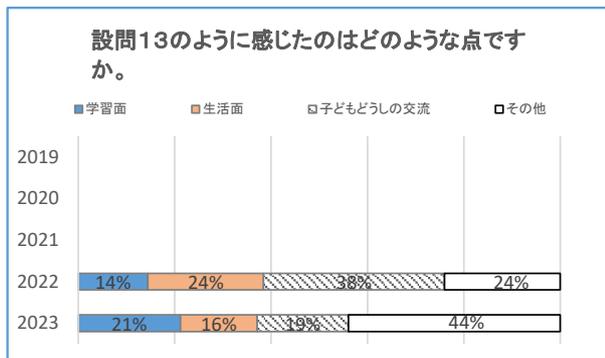
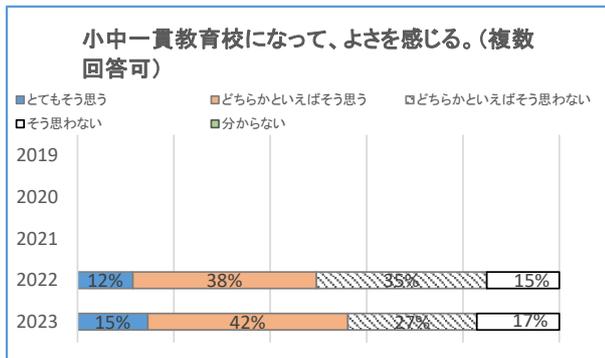
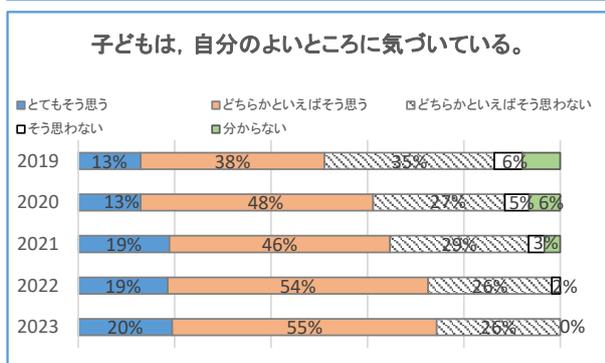
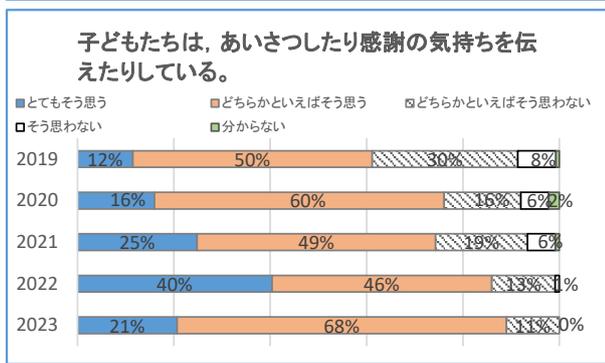
令和5(2023)年度学校教育自己診断【児童】 アンケート結果一覧



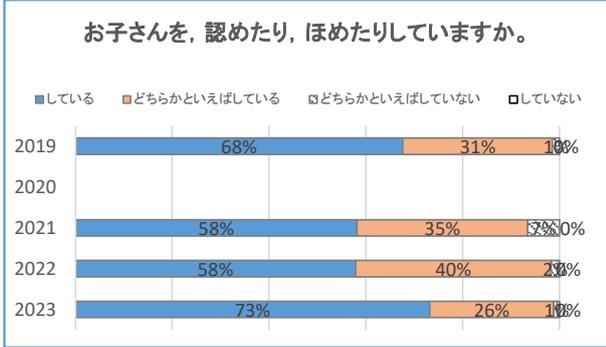
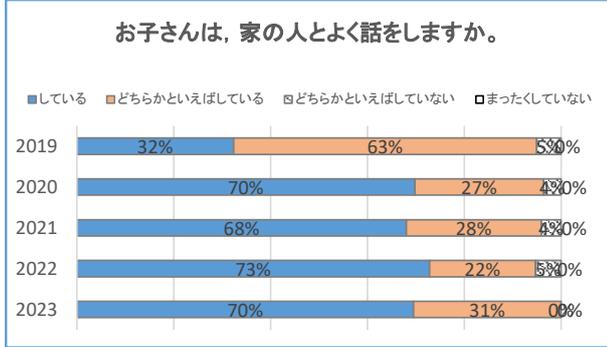
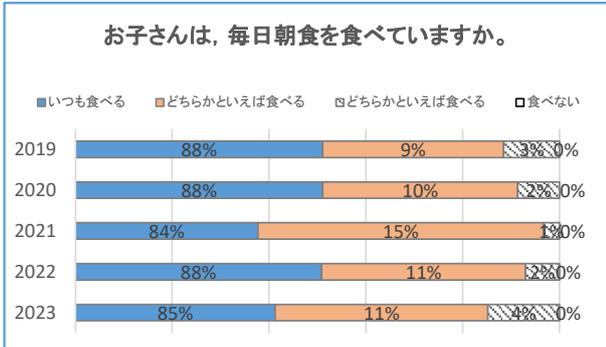
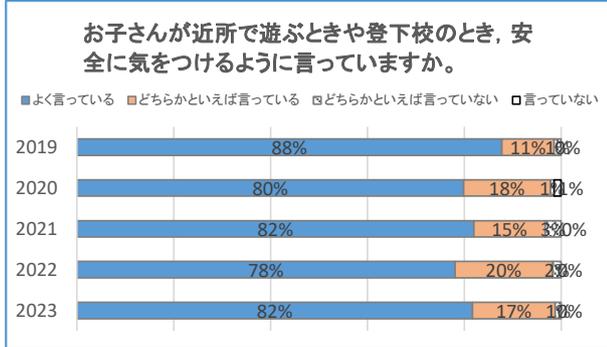
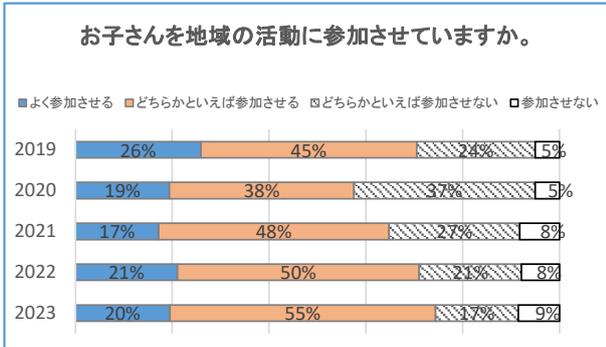
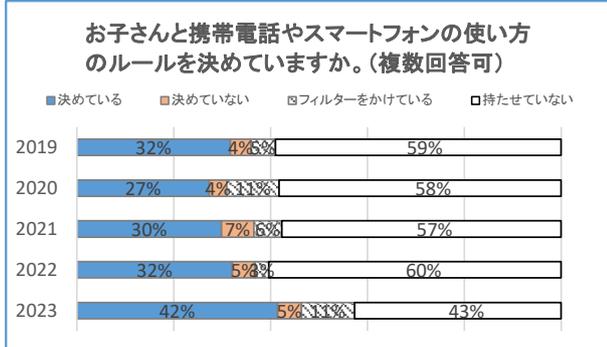
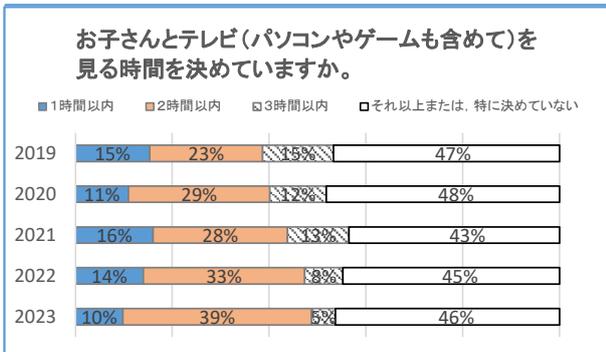
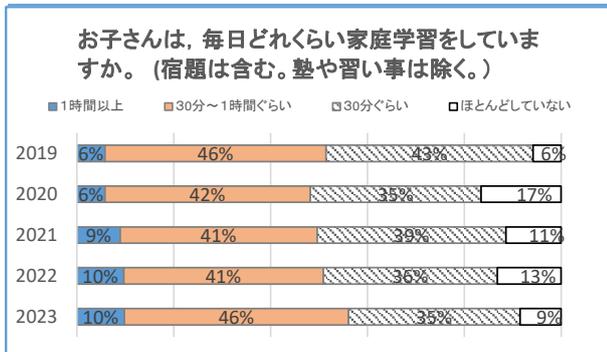
令和5(2023)年度学校教育自己診断【保護者】 アンケート結果一覧



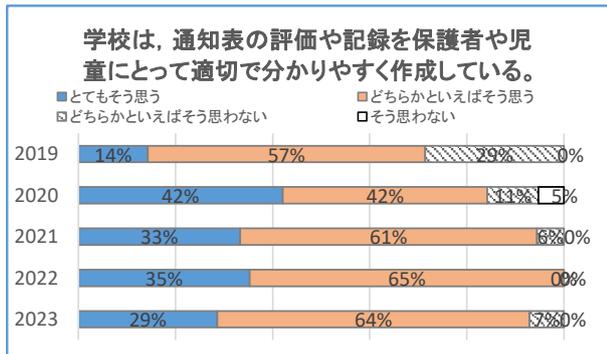
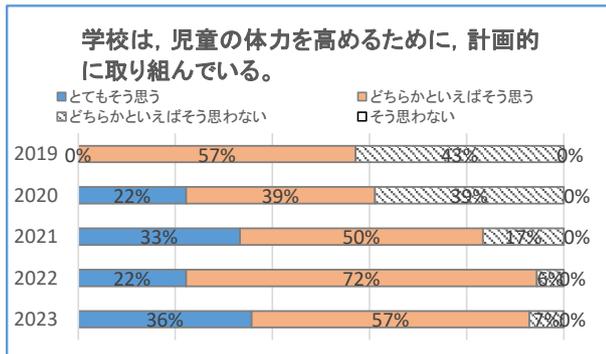
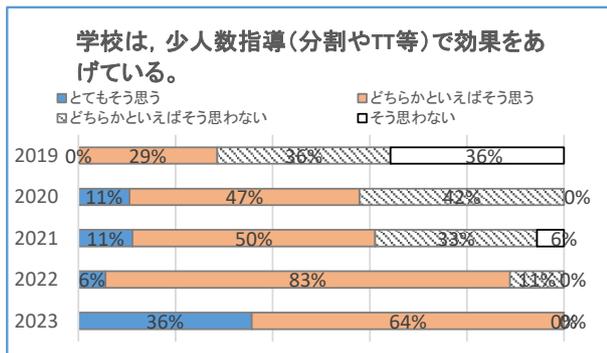
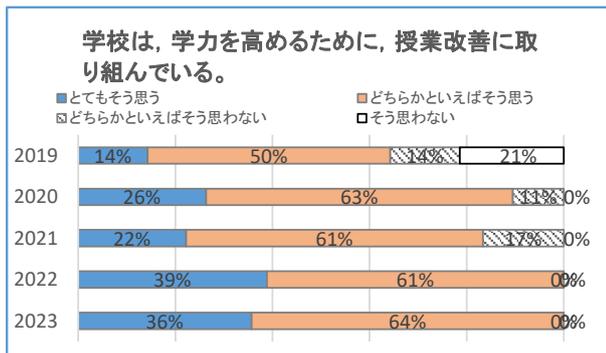
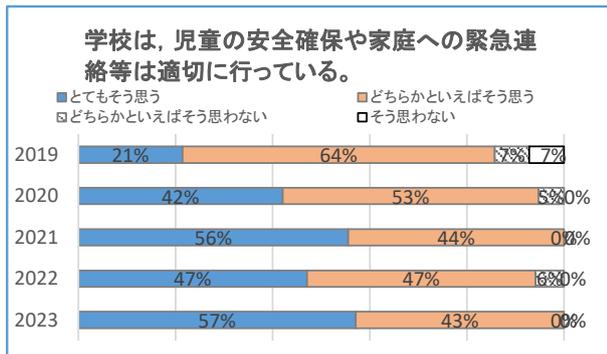
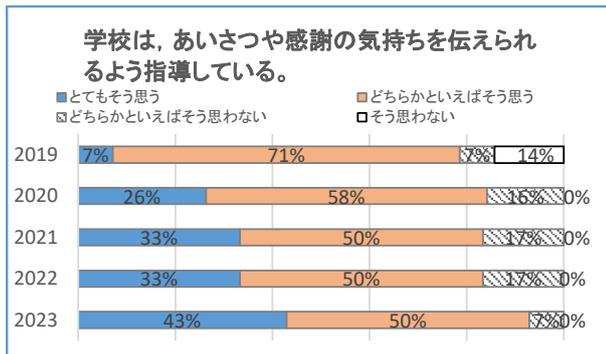
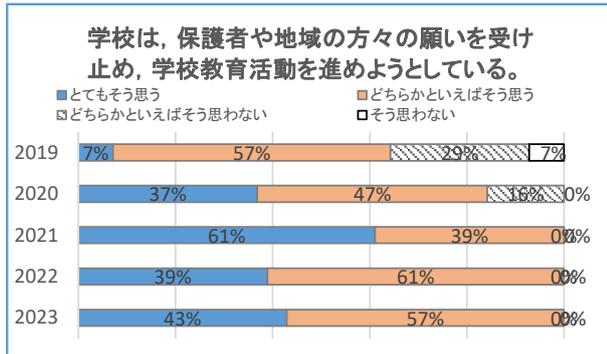
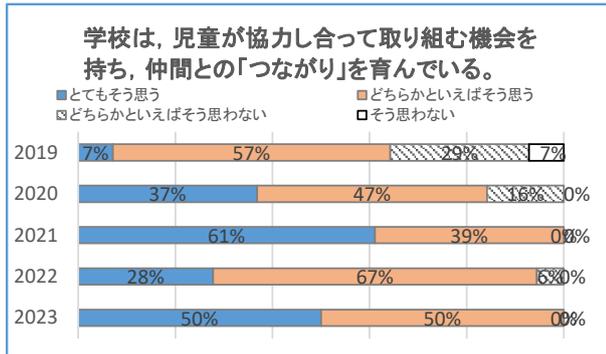
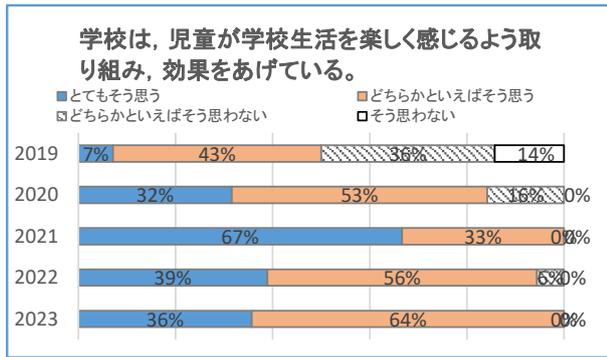
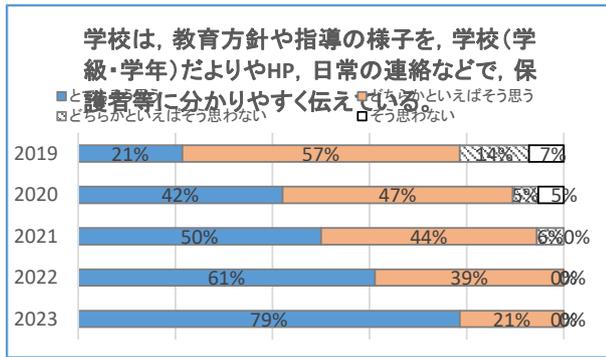
令和5(2023)年度学校教育自己診断【保護者】 アンケート結果一覧



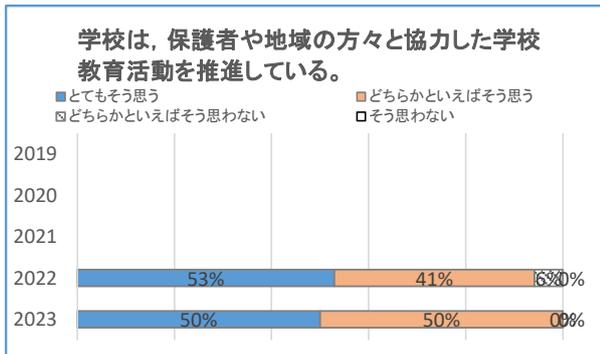
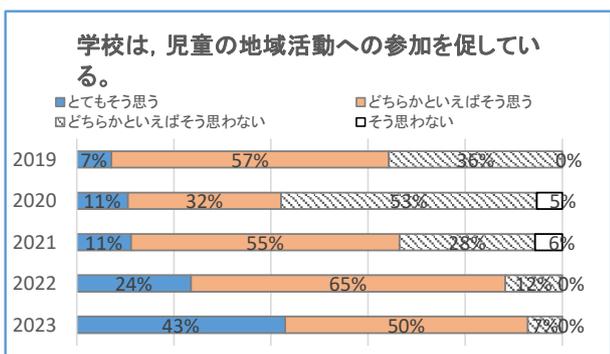
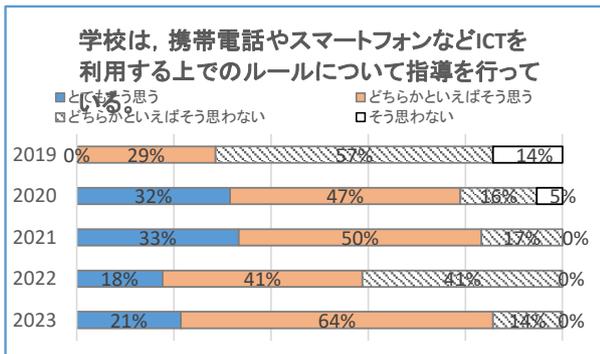
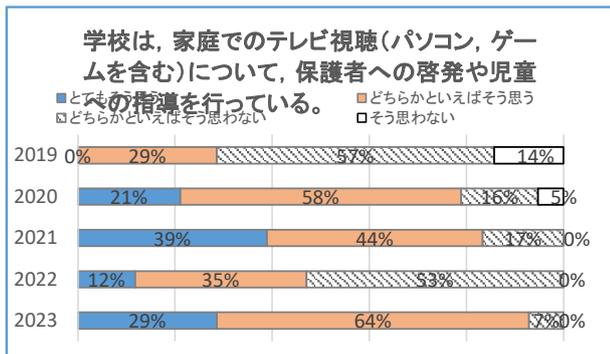
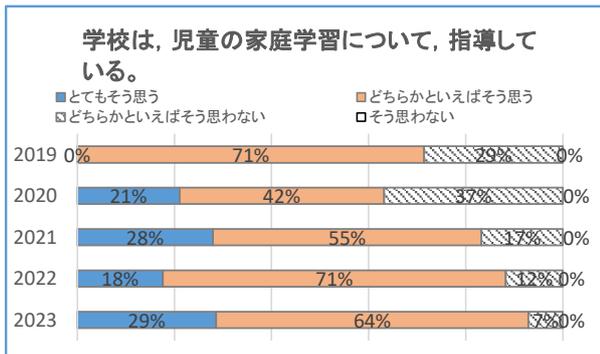
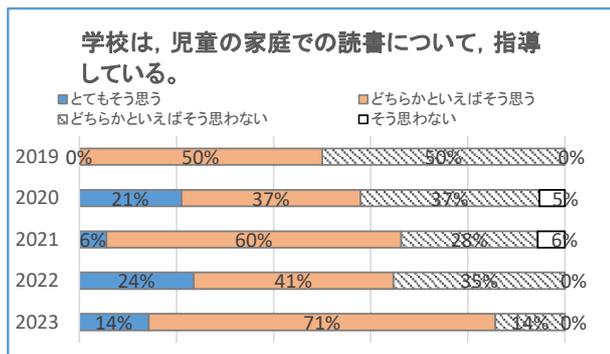
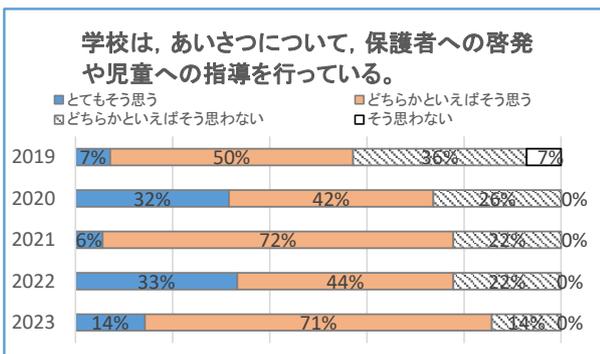
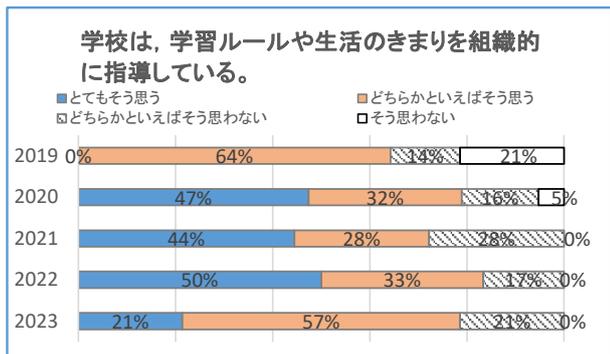
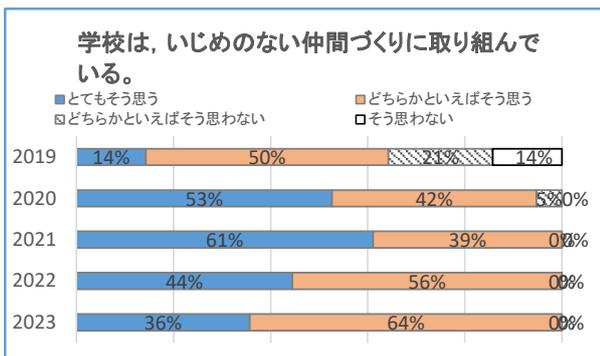
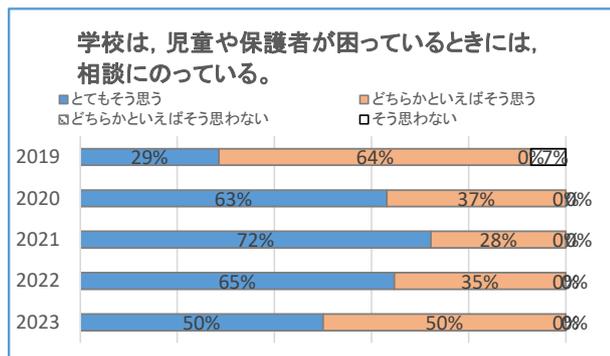
令和5(2023)年度学校教育自己診断【保護者】 アンケート結果一覧



令和5(2023)年度学校教育自己診断【教職員】 アンケート結果一覧



令和5(2023)年度学校教育自己診断【教職員】 アンケート結果一覧



令和5(2023)年度学校教育自己診断【教職員】 アンケート結果一覧

